

A panel discussion on nutraceutical approach to health and disease

糖尿病編 Diabetes

糖尿病患者に対するバイオ・ノーマライザーの効果の研究結果についての報告



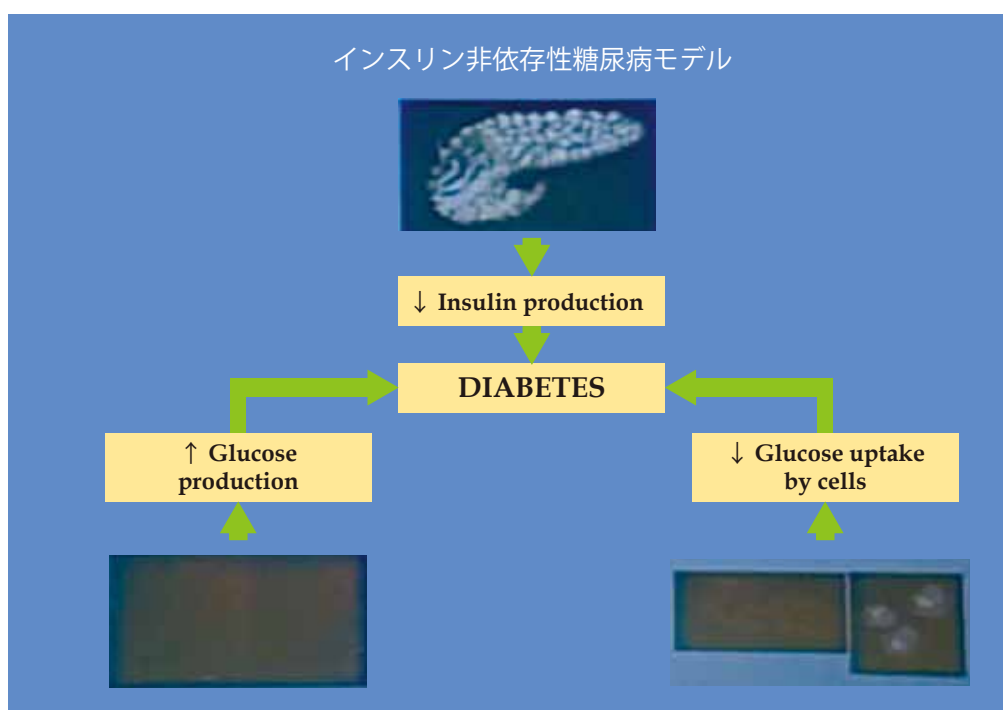
エレナ オストラコヴィッチ 医師
医学博士 (ロシア)

ロシア国立医科大学 首席研究員
大里研究所 医学部門 研究員
イタリア腫瘍学センター客員研究員

糖尿病患者の一酸化炭素とスーパーオキシド産生に対するバイオ・ノーマライザーの効果

糖尿病患者におけるバイオ・ノーマライザーの効果を検討いたしました。バイオ・ノーマライザー糖尿病患者とストレプトゾトシン誘導の糖尿病動物における抗酸化活性が証明済みです。

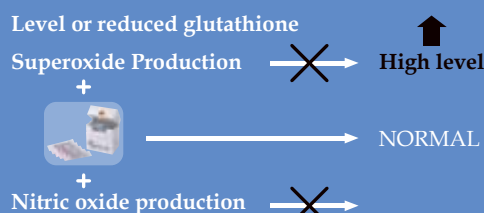
糖尿病は、糖産生のレベル上昇が特徴の、多因子による複雑なプロセスです。高レベルのグルコース産生はベータ細胞が機能不全となり、インスリンが分泌不足となるような伝導と関係があります。これはインスリン依存性糖尿病の場合です。それから、組織のインスリンへの応答が低下し、グルコースの活用が低下することも原因となります。スライド①はインスリン非依存性糖尿病の場合です。



② 糖尿病患者におけるパイロット二重盲検偽薬臨床試験

PILOT DOUBLE-BLIND
PLACEBO CLINICAL TRIALS
WITH DIABETIC PATIENTS

- 20 IDDM patients
- 25 NIDDM patients
- 30 patients with advanced diabetic retinopathy
- 2-3 sachets of BN were given daily for 28 days

③ STZ 誘発糖尿病と糖尿病患者と動物の
フリーラジカルステータスにおける BN の有益な効果Beneficial Effects of BN on Free Radical
Status of Diabetic Patients & Animals
with STZ-Induced Diabetes Mellitus

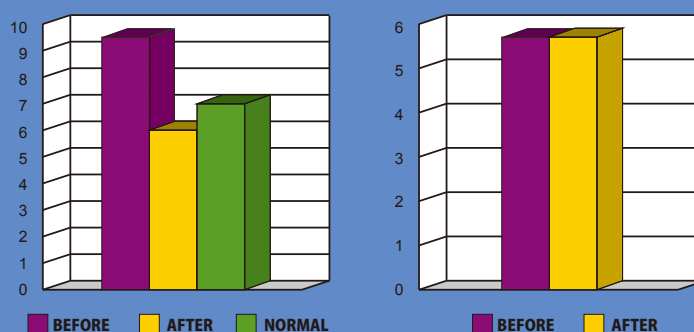
スライド②は、研究対象となった患者さんたちです。よくコントロールされた糖尿病患者45人を研究しました。その内訳は、インスリン依存性糖尿病の患者が20人と、インスリン非依存性糖尿病の患者が25人です。それに加えて、糖尿病性網膜症患者30人を研究しました。患者全員を対照群と実験群に分け、それぞれに従来の治療を行いました。実験群の患者らに28日間、毎日二、三袋のバイオ・ノーマライザーを投与しました。プラセボ群の対照群には、バイオ・ノーマライザーを投与しませんでした。

スライド③です。実験的研究と二重盲検プラセボ臨床予備試験において、バイオ・ノーマライザーの投与により血糖値が低下しました。バイオ・ノーマライザーの投与により、身体レドックス状態が有意に改善され、赤血球のグルタチオンレベルが増加を示し、損なわれていたスーパーオキシドと一酸化窒素の産生が正常化しました。

バイオ・ノーマライザー療法により、血液顆粒球によるペルオキシニ重硝酸の産生が正常化し、糖尿病性網膜症の患者の血漿や涙液、涙の脂質過酸化が減少するに至りました。

次はスライド④では、バイオ・ノーマライザー療法には十分な臨床効果が数多く見られ、その中には血中糖尿病マーカーの低下、そして、インスリンの1日用量の減少、細胞性免疫の改善が認められました。

DYNAMICS OF TBAR PRODUCTS IN PLASMA



このレポートは1999年9月3日に岐阜県の長良川国際会議場で行われたバイオ・ノーマライザー開発30周年記念パネルディスカッション「バイオパシー理論による治療現場からの報告とバイオ・ノーマライザーの今後の可能性」をもとに作成しています。DVDの詳細は大里三旺研究所 (Osato Suno Research Institute 略称 OSRI) のウェブページをご参照ください。

http://osri.asia/lab/30th_anniversary#Redox